

音 楽（一 般）

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称	教科書名
17 教 出	中学音楽 音楽のおくりもの
27 教 芸	中学生の音楽

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

	観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	①	題材や学習目標等の示し方	題材・学習目標の表記の仕方及び学習目標達成のための支援の具体例
		②	歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫	歌唱の技能に関する記載及びその具体例、歌唱共通教材の構成と扱う学年
		③	創作の基礎・基本の定着を図るための工夫	創作の題材の取り上げ方、題材名、指導事項、創作の題材構成の具体例
(イ)	主体的に学習に取り組む工夫	④	音楽的な見方・考え方を働かせる工夫	歌唱分野に関する学習過程等の示し方と具体例
		⑤	音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫	音や音楽と生活との関わりについての記述
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑥	我が国の音楽に関する内容の扱い	学年ごとに扱う鑑賞教材・歌唱教材
		⑦	教材の配列及び分量	教材の配列とその具体例及び目次に示された領域ごとの教材数
(エ)	内容の表現・表記	⑧	〔共通事項〕の指導を充実させる工夫	音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫
(オ)	言語活動の充実	⑨	表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫	音楽科の特質に応じた言語活動の具体例

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	①題材や学習目標等の示し方
方法	題材・学習目標の表記の仕方及び学習目標達成のための支援の具体例

	題材の表記の仕方	学習目標の表記の仕方	学習目標達成のための支援の具体例 鑑賞教材「ブルタバ（モルダウ）」 （第2・3学年下）
教 出	○ 目次に続く学びのユニットのページに、題材を「学びのユニット」として表記し、題材名を「ユニット名」として示している。また、ユニット名の下に、学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲を示している。	○ 教材ページの左端に縦書きで、「学びのポイント」を1～2つずつ示している。	○ 学びのポイント ・曲想と曲全体の構成との関わりを考えながら鑑賞しよう。 ・音楽の背景を理解して曲全体の構成を聴き取ろう。 ○ 学習目標達成のための支援 ・教材名の下に、「(略) 川の流れとともに移り変わる情景を、どのようにオーケストラで表しているのかを、作曲者の思いを感じ取りながら聴いてみましょう。」と示している。 ・聴き取ったり気付いたりしたことを記録する欄を設けている。
教 芸	○ 目次に続く学習内容のページに、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示している。学習内容と各教材との関連度の大小を色の濃さで表している。	○ 教材ページの左端に縦書きで、学習目標を示している。	○ 学習目標 ・作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わおう。 ○ 学習目標達成のための支援 ・教材名の下に、「曲想と音楽の特徴との関わりに注目しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴きましょう。」「作曲者が記した標題や解説、当時の時代背景から、作品にこめられた思いを感じ取って聴きましょう。」という2つの活動文を示している。 ○ 「音楽的な見方・考え方」を働かせる際の視点となる音楽を形づくっている要素として、「音色、速度、旋律、強弱」を示している。

【音楽（一般）】

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	②歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫
方法	歌唱の技能に関する記載及びその具体例，歌唱共通教材の構成と扱う学年

	学年	歌唱の技能に関する記載及びその具体例	歌唱共通教材の構成と扱う学年
教出	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「Let's Sing！」 【歌うための準備】 歌うための姿勢，息のコントロール，母音の発音 【言葉の発音について】 鼻濁音（「夏の思い出」「赤とんぼ」） 【変声と混声合唱】 変声（声変わり），楽譜の見方，混声三部と混声四部のパート，声部の役割 ○ キャラクターのセリフで留意点等について示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の見開きで，各学年から1～2曲（「夏の思い出」「浜辺の歌」「早春賦」「花」）を取り上げ，歌詞や写真，作曲者の言葉等を掲載している。 ○ 各学年2曲の歌唱共通教材を「日本の歌 みんなのうた」として示している。 ○ 各学年とも「日本の歌 みんなの歌」の2曲を連続して掲載し，学びのポイント，楽譜，歌詞，作者の写真と紹介文を示している。 ○ 「日本の歌 みんなの歌」に続けて「Let's Sing!」を掲載し，対応する学習内容を示している。
	2・3上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「Let's Sing！」 【旋律のまとまり】 二部形式（「浜辺の歌」「早春賦」） 	
	2・3下	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「Let's Sing！」 【フレーズと形式】 七五調（「花」「荒城の月」） 	
教芸	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「My Voice！」 【自分の歌声を見つけよう】 準備（姿勢と呼吸），歌声づくり 【変声期】 「変声期に歌声はどうなるの？」「どうして声を出しづらいの？」 ○ 声の出る仕組みについて，図1，図2を用いて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年とも，1曲は見開きで，写真や歌詞，作曲者の言葉等を掲載している。 ○ 歌唱共通教材を「心の歌」として示している。 ○ 各学年とも「心の歌」を連続して掲載し，学習目標，活動文，楽譜，歌詞，作者の写真と紹介文を示している。 ○ 「夏の思い出」に続けて「深めよう！音楽」を掲載し，対応する学習内容を示している。
	2・3上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「My Voice！」 【自分の思いに歌声をのせよう】 スムーズな息の流れに歌声をのせるには 【鼻濁音】 鼻濁音を使って柔らかな響きで ○ キャラクターの吹き出しで，留意点等について示している。 	
	2・3下	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「My Voice！」 【豊かな歌声で，気持ちをこめて歌おう】 姿勢と呼吸，息の流れ，響かせ方 ○ 第1学年，第2・3学年上で掲載していたイラストを再掲載し，豊かな歌声で歌うためのポイントを示している。 	

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	③創作の基礎・基本の定着を図るための工夫
方法	創作の題材の取り上げ方, 題材名, 指導事項, 創作の題材構成の具体例

	創作の題材の取り上げ方	学年	題材名等	指導事項	創作の題材構成の具体例 (第1学年の構成を工夫して創作する題材)
教出	○ 「音のスケッチ」として, 各学年2つずつの活動を取り上げている。	1	○ 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう	音のつながり方の特徴	○ 第1学年「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」の学習の流れ はじめに「日本語には, 自然や動物, 物などが発する音や, 様子を表す言葉がたくさんあります。」 活動①「5～6人のグループになり, 表現したいテーマを決め, さまざまな言葉で表してみよう。」 活動②「『活動①』で表した言葉をカードにして, 繰り返したり重ねたりしてテーマを表現してみよう。」 活動③「テーマにそった簡単なストーリーを想像し, 構成や言葉の重ね方を工夫して, イメージに合った音楽をつくろう。始め方と終わり方も工夫しよう。」 もっと楽しもう「もう一度, 簡単なストーリーや集めた言葉を検討し, 交流したことを参考に作品をつくり直してみよう。」
			○ 全体の構成を考えながら音楽をつくろう	構成上の特徴	
		2・3上	○ リズムパターンをつくろう	構成上の特徴	
			○ 平調子の特徴を生かして音楽をつくろう	音のつながり方の特徴	
		2・3下	○ 言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう	音のつながり方の特徴	
○ CMソングをつくろう	構成上の特徴				
教芸	○ 「My Melody」及び「Let's Create!」として, 各学年2つずつの活動を取り上げている。	1	○ 音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。	音のつながり方の特徴	○ 第1学年「構成を工夫して, 3つの場面の音楽をつくろう。」の学習の流れ ①「下の2つの風景からどちらかを選んで場面を設定し, ワークシートのアイに書き入れましょう。」 ②「グループで話し合って音素材を選びましょう。その際, 音を出して確かめながら, 場面に合う音素材を探しましょう。」 ③「グループで話し合いながら強弱や構成を工夫して音楽をつくりましょう。つくった音楽は, 右ページの例のように図形などを使って, ワークシートのウに書き入れましょう。また, 音素材を選んだ理由や, 構成を工夫した点などもエに書き入れましょう。」 ④「中間発表をして, つくった音楽について意見交換をしましょう。」 ⑤「意見交換したことを参考に音楽を完成させて, もう一度発表しましょう。」
			○ 構成を工夫して, 3つの場面の音楽をつくろう。	構成上の特徴	
		2・3上	○ 言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。	音のつながり方の特徴	
			○ 構成を工夫して, 言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。	構成上の特徴	
		2・3下	○ ハ長調の音階とまりのある旋律をつくろう。	音のつながり方の特徴	
			○ 音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう。	構成上の特徴	

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	④音楽的な見方・考え方を働かせる工夫
方法	歌唱分野に関する学習過程等の示し方と具体例

	学習過程等の示し方	合唱における具体例
教 出	<p>○ 学習過程の示し方</p> <p>○ 音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫</p>	<p>教材曲「生命が羽ばたくとき」(第2・3学年上)</p> <p>学びのねらい「曲にふさわしい発声で歌おう」</p> <p>学びのポイント「歌詞の内容を味わい、強弱や音域に応じた歌い方を工夫しよう。」「旋律のまとまりを捉えて、音域に応じた発声で歌おう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度や強弱に関する記号(□の部分)を記入し、旋律の特徴や主旋律のパートと他のパートとの関わり、曲の山場(クライマックス)などについて、気づいたことを余白にメモしよう。 ・④～⑥ごとに、感じ取った曲想や表現を工夫したい点を下の表にまとめてみよう。また、指揮の振り方についても考えてみよう。 <p>○ 「感じ取った曲想について」及び「表現を工夫したい点について」をまとめる表の横に、キャラクターの吹き出しで「女声パートを男声パートが追いかけるようになってきているのね。」「『生命が羽ばたくとき』の強弱は mp→mf→f しいに強くなっていくんだね。」と示している。</p>
教 芸	<p>○ 学習過程の示し方</p> <p>○ 音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫</p>	<p>教材曲「翼をください」(第2・3学年上)</p> <p>学習目標「パートの役割を理解して合唱しよう。」</p> <p>活動文「A B Cそれぞれの曲想の違いやパートの役割を感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫して歌いましょう。」</p> <p>1 A B Cそれぞれの部分の音楽の特徴について、下のヒントを参考にしながら確かめましょう。</p> <p>2 1で確かめたことをもとに、どのような点を工夫して歌いたいかをまとめましょう。実際に歌って試しながら、下の注目するポイントに気を付けて表現の仕方を考えましょう。また、参考にしたい友達の見解も書き留めて、自分たちの演奏に生かしましょう。</p> <p>○ 工夫したい点についてまとめる際の注目するポイントとして「リズム、テクスチャ(音の重なり方)、強弱、構成」を示し、キャラクターの吹き出しで、「『翼をください』の歌い出しの旋律は、なだらかな音の動きだから、落ち着いた雰囲気です。」「『さだね。伴奏も、4分音符のリズムで静かな感じ。』『でも、強弱記号は歌も伴奏も mf だから、弱々しくしないで、旋律を滑らかに歌いたいな。』『そのためには、息の流れに歌声をのせるイメージで歌えるといいね。』と示している。</p>

【音楽（一般）】

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	⑤音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫
方法	音や音楽と生活との関わりについての記述

		音や音楽と生活との関わりについての記述	
教 出	○ 音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や、学習資料等を掲載している。	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とアジアの声によるさまざまな表現 ・発展「音」ってなあに？ ・(巻頭口絵) 作者の思いにふれる
		第2・3学年上	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の音楽や芸能 ・ポピュラー音楽図鑑 ・私たちのくらしと音楽～音楽著作権について～ ・(巻頭口絵) 作者の思いにふれる
		第2・3学年下	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな舞台芸術 ・コンピュータと音楽 ・私たちのくらしと音楽 ・(巻頭口絵) 作者の思いにふれる
教 芸	○ 音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や、表現者からのメッセージ等を掲載している。	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土に伝わる民謡を調べよう ・生活や社会の中の音楽 音や音楽の果たす役割 ・(巻頭口絵) 伝統をつなぐ 野村萬斎 ・(巻頭口絵) 音楽ってなんだろう？～世界をつなぐもの～
		第2・3学年上	<ul style="list-style-type: none"> ・受け継ごう！郷土の祭りや芸能 ・生活や社会の中の音楽 音楽体験を拓くアウトリーチ ・(巻頭口絵) 14歳の時間 松任谷由実 ・(巻頭口絵) 音楽ってなんだろう？～時間とともにあるもの～
		第2・3学年下	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能 ・ポピュラー音楽 ポピュラー音楽のジャンル（海外編） ポピュラー音楽のジャンル（日本編） ・社会を映し出す音楽 ・ルールを守って音楽を楽しもう！ ・生活や社会の中の音楽 仕事と音楽 ・(巻頭口絵) 詩人と作曲家 谷川俊太郎×木下牧子 ・(巻頭口絵) 音楽ってなんだろう？～声や音にのせて～

【音楽（一般）】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑥我が国の音楽に関する内容の扱い
方法	学年ごとに扱う鑑賞教材・歌唱教材

	学年	鑑賞教材，歌唱教材（歌唱共通教材以外）	
教 出	1	鑑賞教材	箏曲「六段の調」，尺八曲「鹿の遠音」，日本とアジアの声によるさまざまな表現，日本とアジアをつなぐ音，郷土のさまざまな民謡
		歌唱教材	「ソーラン節」，「かりぼし切り歌」，「この道」，「谷茶前」，「故郷（全校合唱）」
	2・3 上	鑑賞教材	雅楽「越天楽」，舞楽左舞「万歳楽」，舞楽右舞「狛鉾」，郷土の音楽や芸能，能「羽衣」キリから，各地のさまざまな音楽・芸能
		歌唱教材	「時計台の鐘」 ^{しょうが} ，唱歌を用いて「越天楽」を体験しよう，能の音楽を体験しよう，「雪の降る町を」，「故郷（全校合唱）」
	2・3 下	鑑賞教材	歌舞伎「勧進帳」，文楽「義経千本桜」から
		歌唱教材	「椰子の実」，長唄「勧進帳」をうたおう，「故郷（全校合唱）」
教 芸	1	鑑賞教材	雅楽「平調 越天楽」一管絃一，箏曲「六段の調」，日本の民謡，郷土に伝わる民謡を調べよう
		歌唱教材	「越天楽」 ^{しょうが} の唱歌を歌おう，「ソーラン節」，「涙そうそう」，「上を向いて歩こう」，「ふるさと（全校合唱）」
	2・3 上	鑑賞教材	歌舞伎「勧進帳」，文楽「新版歌祭文」から“野崎村の段”，受け継ごう！郷土の祭りや芸能
		歌唱教材	長唄「勧進帳」から，義太夫節「野崎村の段」から，「やさしさに包まれたなら」，「夏は来ぬ」，「ふるさと（全校合唱）」
	2・3 下	鑑賞教材	尺八楽「巢鶴鈴慕」，能「敦盛」，沖縄の伝統芸能「組踊」に親しもう，伝統音楽の魅力を見つけよう，私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能
		歌唱教材	謡「敦盛」から，「花は咲く」，「椰子の実」，「ふるさと（全校合唱）」

【音楽（一般）】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑦教材の配列及び分量
方法	教材の配列とその具体例及び目次に示された領域ごとの教材数

	教材の配列	具体例（教材数） 第1学年の配列	目次に示された 領域ごとの教材数			
			領域	学 年		
				1年	2・3年上	2・3年下
教 出	<p>○ 各学年とも、歌唱教材，創作，鑑賞教材の順で配列している。その後、「深めてみよう」の歌唱教材・鑑賞教材，合唱曲集，国歌「君が代」，楽典，資料の順で配列している。</p> <p>○ 歌唱や創作等のヒントとなる「Let's Sing!」「Let's Try!」を掲載している。</p>	<p>①歌唱教材（9） ②創作（2） ③鑑賞教材（7） ④歌唱教材（深めてみよう）（3） ⑤鑑賞教材（深めてみよう）（3） ⑥「音」ってなあに？（発展） ⑦合唱曲集 ・歌のアルバム（6） ⑧国歌「君が代」 ⑨楽典 ⑩資料（楽器の写真） （「Let's Sing!」「Let's Try!」は除く）</p>	歌唱	19	16	18
			創作	2	2	2
			鑑賞	10	11	9
教 芸	<p>○ 第1学年は，歌唱教材，鑑賞教材，合唱曲集，楽典，国歌「君が代」の順で配列しており，創作については，関連する歌唱教材及び鑑賞教材の後に配列している。</p> <p>○ 第2・3学年は，歌唱教材，創作，鑑賞教材，合唱曲集，楽典，国歌「君が代」の順で配列している。</p> <p>○ 歌唱や鑑賞等の参考となる「発声」「指揮」を掲載している。</p>	<p>①歌唱教材（3） ②創作（1） ③歌唱教材（6） ④鑑賞教材（1） ⑤創作（1） ⑥鑑賞教材（5） ⑦歌唱教材（1） ⑧鑑賞教材（1） ⑨合唱曲集 ・歌い継ごう日本の歌（3） ・心通う合唱（11） ⑩曲のよさをプレゼンしよう ⑪音楽の約束（楽典） ⑫国歌「君が代」 （「発声」「リズムで楽しもう」「指揮」は除く）</p>	歌唱	25	21	18
			創作	2	2	2
			鑑賞	7	6	6

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑧〔共通事項〕の指導を充実させる工夫
方法	音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫

音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫	
教 出	<p>○ 音楽を形づくっている要素の示し方</p> <p>○ 「学びのユニット」の図において、「学びの手がかりとなるヒント」として、題材で扱う音楽を形づくっている要素を濃い色で示している。</p> <p>○ 第1学年及び第2・3学年上の「どんな特徴があるかな？」のページに、音楽を形づくっている要素の内容を掲載している。</p>
	<p>○ 体を動かす活動を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫</p> <p>○ 「指揮をしてみよう」を第1学年及び第2・3年上に掲載している。</p> <p>○ 歌唱教材「そよぐ風の中で」（第2・3学年上）の例 「次の『ステップ①～⑥』を参考にして、『そよぐ風の中で』の指揮をしてみよう。」</p> <p>ステップ①「♩=88で4/4の指揮をしてみよう。メトロノームで速度を確認してみよう。」</p> <p>ステップ②「ピアノ伴奏者と速度を共有しながら、片手で指揮を始めます。」</p> <p>ステップ③「Aから歌が始まりますが、みんなに向かってブレスを意識して合図をしてみよう。合図の方法はいくつかありますが、直前の小節の3～4拍めぐらいから、両手で指揮をするとわかりやすいでしょう。」</p> <p>ステップ④「強弱を指揮で示してみよう。A～Dの強弱の設定は、次のようになっています。」</p> <p>ステップ⑤「Dの1番かっこには3小節の間奏があります。ここは、ピアノ伴奏者に向かって指揮をしよう。」</p> <p>ステップ⑥「この曲の最後の rit. は、歌も伴奏も同時に終わるように示してみよう。」</p>
教 芸	<p>○ 音楽を形づくっている要素の示し方</p> <p>○ 見開き左ページ下に示している。</p> <p>○ 資料のページに、音楽を形づくっている要素の内容を掲載している。</p>
	<p>○ 体を動かす活動を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫</p> <p>○ 「指揮をしてみよう！」を各学年に掲載している。</p> <p>○ 鑑賞教材「交響曲第5番 ハ短調」（第2・3学年上）の例 「『交響曲第5番 ハ短調』を聴きながら指揮をして、音楽の特徴を感じ取りましょう。」</p> <p>①「『交響曲第5番 ハ短調』を聴こう。」</p> <p>②「冒頭部分の指揮をしよう。また、友達の指揮に合わせて、冒頭のリズムを手拍子で打ったり、言葉を付けて歌ったりしよう。」</p> <p>③「続けて、提示部を聴きながら指揮をしよう。その際、動機の音型や、下の注目するポイントに気を付けながら、第1主題と第2主題の違いを感じ取ろう。」</p> <p>注目するポイント「リズム、旋律、強弱、構成」</p>

観点	(才) 言語活動の充実
視点	⑨表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫
方法	音楽科の特質に応じた言語活動の具体例

音楽科の特質に応じた言語活動の具体例		
教 出	<p>○ 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた創作の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したい思いや意図を伝え合う場面の設定 ・実際に音を出して音楽表現を高めていく場面の設定 	<p>○ 「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」(第2・3学年上)</p> <p>学びのポイント「旋律のつながり方を工夫して、まとまりのある音楽をつくろう。」「平調子の響きや旋律のまとまりを捉えてリズムを選ぼう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動①～③が示され、②では「五つの音から自由に音を選び、④～⑤のリズムを使って短い旋律をつくり、リコーダーや箏で表現して交流しよう。」と示し、「交流したことを記録しておこう。」の記入欄がある。 ・活動③では、「五つの音と④～⑤のリズムを自由に選んで短い旋律をつくり、リコーダーや箏で表現して再度交流しよう。」と示している。
	<p>○ 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた鑑賞の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有する場面の設定 	<p>○ 「弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう」(第1学年)</p> <p>教材曲「春 第1楽章」「秋 第1楽章」</p> <p>学びのポイント「曲想の変化を形式やソネットと関わらせながら鑑賞しよう。」「リトルネッロ形式による曲の構成を聴き取ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ソネットと音楽の関わりで、いちばんおもしろいと思ったところを、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」と示し、吹き出しで「ソネットに描かれている情景と音楽との関わりについて、聴き取ったことや感じ取ったことをまとめておきましょう。」と示している。 ・気がついたことや感じ取ったことを記録する欄がある。 ・『春』第1楽章と『秋』第1楽章を比べて、共通するところや、それぞれのよさなどについて、発表し交流してみよう。」と示している。
教 芸	<p>○ 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた創作の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したい思いや意図を伝え合う場面の設定 ・実際に音を出して音楽表現を高めていく場面の設定 	<p>○ 「言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。」(第2・3学年上)</p> <p>活動文「課題に沿って、創意工夫して旋律をつくりましょう。」(課題: 俳句に音を付けて4分の4拍子、4小節の旋律をつくる。言葉の抑揚に合った旋律をつくる。民謡音階を使う。最後はレ、ソ、レのどれかの音で終わる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動①～④が示され、②では「中間発表をして、つくった旋律について意見交換をしましょう。」と示している。また、ワークシートには、「旋律をつくるときに工夫した点」の記入欄がある。 ・学習活動③では「意見交換したことを参考に旋律を完成させて、もう一度発表しましょう。」と示している。
	<p>○ 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた鑑賞の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有する場面の設定 	<p>○ 「音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴こう。」(第1学年)</p> <p>教材曲「春 第1楽章」</p> <p>活動文「作曲者が情景をどのように表現しているのかに注目しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴きましょう。」「合奏と独奏の対比や、曲の構成に気を付けながら聴きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽を聴き、それぞれの部分について、聴き取ったことと、感じ取ったことを書き入れましょう。」と示し、記入する表がある。 ・「この曲のどのようなどころによさを感じましたか。また、その理由も発表し合いましょう。」と示している。キャラクターの吹き出しでは、「⑧でヴァイオリンの独奏が小鳥の鳴いている様子をまねているのが印象的でした。」「爽やかな部分と激しい部分の対比がかっこいいと思いました。」と示している。